

熊本地震 被災地を訪れて

川崎市議会議員 **いわくま ちひろ** 民主みらい川崎市議団
連載No.86

8月8日から2日間、熊本地震で甚大な被害を被った熊本市と益城町の現地調査と、市民のみなさんから託された義援金を届けるために被災地を訪問してきました。

熊本市内は、復興が進むとともに多くの方は日常生活を取り戻しています。しかし、一般住宅においては損壊レベルが異なるため、再建のための二重ローンなど金銭面における課題が山積していました。また、熊本県人のシンボルとも言うべき熊本城の損壊は著しく、完全復元までにはかなりの時間を要するようでした。

益城町は、熊本市に隣接する町です。熊本地震は、4月14日、16日と本震が2回連続して発生しましたが、益城町は両方の地震において震度7を記録しています。幹線道路は復旧したものの、災害廃棄物や倒壊家屋は未だ手つかずの状態でした。

被災者の方々の意見交換の中では、何よりも「水」の重要性についてご指摘を頂きました。飲料水だけでなく生活用水が不足する場合には、衛生面や体調不良になる場合も多く、かなりのストレスになったそうです。

溝の口駅、梶ヶ谷駅、イトーヨーカドー溝の口店前でお寄せ頂いた義援金は、女性教員の方が設立された民間ボランティア団体「なないろネットワーク熊本」に寄付させて頂きました。当初は、子どもたちの居場所づくりや学習支援を目的に設立された団体ですが、熊本地震を経て、被災者への物資提供、被災児童の見守り事業、心のケア、学習支援など幅広く活動されています。

避難所にて、団体の活動状況を拝見するとともに、これまでの活動内容等を講義して頂きました。団体代表の方からは、寄付を頂いた川崎市民の皆様への御礼と、地震復興支援としてぜひ熊本を訪問して頂きたい旨のお返事があったことご報告させていただきます。



義援金は、なないろネットワーク熊本さんへ



崩落した熊本城の石垣



益城町の幹線道路



木造住宅の1階が潰れていました



災害廃棄物撤去はこれからです



川崎市議会議員 **いわくま 千尋** (ちひろ)

- 昭和50年生まれ 41歳
- 英国国立ウェールズ大学卒業、ロンドン大学大学院研究生、専門は国際政治学
- 国際派議員として、子どもから大人まで英語学とキャリア教育を教える。毎週日曜日は、イトーヨーカドー溝の口店前で市政報告を継続中！(9年10カ月)